

令和5年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第二小学校

校長名 湊 仁

公印

教育目標

人権尊重の精神を基盤として、児童に豊かな心、確かな学力、健やかな体の調和を重視した「生きる力」を育成するため、次の目標を定める

(◎印は、本年度の重点事項)

◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○体を大切にする子

1 目指す特色ある学校像

児童、保護者、教職員、地域の方それぞれ「みんなが楽しくなる学校」を目指す

児童にとって	保護者にとって	地域にとって	教職員にとって
楽しいがあふれる ◎学習が分かる、できる 活躍や協力の場、友達がいるから楽しい	安心と感動がある ◎安心、信頼がある 子供の健やかな成長、学びや鍛え、活躍が楽しい	地域の拠り所である ◎子供が元気だから 楽しい 元気がもらえるから楽しい	やりがいがあふれる ◎子供の成長を保護者・地域・全職員で喜び合えるから楽しい

◎児童・保護者・地域・関係機関・教師がつながる「連携・協働の二小」

2 学校経営の目標

(1) 中期的目標

教育目標「よく考える子」を重点とし、全教育活動を通じて育成する。

- I 学習指導要領の確実な実施とカリキュラム・マネジメントの推進を図る ICTを効果的に活用した教育を推進し、個別最適な学び、協働的な学びの実現を目指す。
- II 人権教育を軸に、道徳教育の充実や福生市学び方スタンダードを浸透させ、自他共に大切に、思いやりのある子を育成する。
- III 保護者・地域、関係機関との連携や協働的な教育活動を特色ある教育活動と位置付け、児童の健全育成、教育活動の充実に繋げていく。

(2) 本年度の目標

- ◎ 全教職員による創意工夫を活かし、安心・安全を最優先し、感染症予防対策を徹底すると共に創意工夫と活力ある教育活動の展開を目指す。
- I 教職員の資質や組織運営力を高め、カリキュラム・マネジメント、ICTを積極活用し、「個別最適な学び・協働的な学び」の実現に向けた教育を目指す。
- II 人権尊重教育推進校(R3・4年度)としての成果を継承し、児童が自分を大切に、相手を思いやる豊かな人間関係形成力を育む教育を推進する。
- III CS指定校としての運用を活性化させ、保護者・地域、関係機関との連携や協働的な教育活動を展開し、健全育成、体験型学習の導入、教育活動の充実を図る。

3 目標達成に向けての課題

- (1) 教職員一人一人が「学習指導要領」と「個別最適な学び・協働的な学び」の内容を確実に理解し、実践力を高める。
- (2) 「授業力」・「組織運営力」・「チーム力」を磨く。
 - ①タブレット等のICTを積極的に活用することで、授業力向上(「分かった」「できた」の手応えのある授業)を常に目指す。
 - ②教員の主体性・自立性を発揮し、学校組織運営に基づいて、チーム力を生かし、教育活動を活性化する。

4 経営の具体策

教育目標の達成に向けての具体的方策

I 学習指導要領の確実な実施とカリキュラム・マネジメントの推進

(1) 学習指導要領に基づく学力観の浸透、「よく考える子」(深い学び)の育成

カリキュラム・マネジメント、タブレット等のICTの積極的活用、国・都・市学力調査データ等を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得や持続可能な社会の創り手としての資質・能力を伸ばす。

① 個別最適な学び／学習習慣の確立

- ・重点的な指導、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定による指導の個別化の推進
- ・学習活動や学習課題の機会を提供、自ら学習を調整できるよう学習の個性化の推進

② 協働的な学び・「主体的・対話的で深い学び」を生み出す授業の創造

本校の特色を生かした地域協働学習の展開（地域人材、教材等の活用）

③ 国際理解や言語環境、ALTを効果的な活用した外国語・外国語活動教育の推進

④ 読書量や二小の百冊の設定、読み聞かせ、図書館司書等の活用による読書教育の推進

(2) 「体を大切にする子」(心身健康力)の育成

① 2020レガシー校の精神を継承し、スポーツへの関心・障害者理解の向上

② 体力調査結果に基づいた「体力向上推進計画」の作成と体育授業の質的改善推進

③ 専門機関と連携し、食育、がん教育、薬物乱用防止等の健康教育の推進

(3) インクルーシブ教育のより一層の推進 特別支援教育の充実と展開

① 特別支援学級「くまがわ学級」及び特別支援教室「かわせみ教室」の細やかな指導

② 支援や専門性向上、特別支援教育校内委員会の機能の充実

③ 実態に応じた読み書きアセスメントやSSTの促進、SCやSSW、巡回心理士、関係機関との連携、細やかな支援体制の充実

II 人権尊重教育推進校の成果の継承、生徒指導提要に基づく教育活動の充実

① 自他を大切にし、相手を思いやる人権教育の推進（挨拶・言葉遣い等）

② 「道徳科校内研修ノート」活用等による道徳科教育の充実

③ 気持ちの良い生活習慣の確立（ふっさつ子スタンダード+二小「きりつと生活」）

④ 豊かな人間関係を育むための多様な関わりや異年齢、異校種との交流活動の充実

・縦割り班活動・異学年交流による主体性の伸長、リーダー性や協力的態度の育成

・幼保小中連携：スタートカリキュラムの充実、交流活動や教育活動の継承や連携

一中校区の9年間のスムーズな系統・接続を目指した小中連携の活性化

⑤ 安心・安全の保障と居場所づくりや絆づくりによる信頼関係の構築、児童理解の充実

・いじめ・不登校0を目指す指導・支援 未然防止・早期解決や関係機関との連携

・不登校(傾向)児童と学校のつながりを大切にする細やかな対応

・安全教育プログラムの活用（防災教育・防犯教育・安全教育・SNSルール等）

III 組織力向上、保護者・地域との連携・協力、CS指定校としての運用の活性化

(1) 学校組織運営力を高め、チーム力を発揮し、活発な教育活動を展開

① チームによる話し合い、連携・協働による教育活動の充実

② 教員の主体的な学び合い高め合いによる専門性向上（研修会・OJT・校内研究等）

(2) 働き方改革の推進

① 心身ともに健康で、働く意欲につながる雰囲気づくり

② 法令に基づく労働状況の改善、勤務時間の把握、業務の効率化の推進

③ 労働環境整備、業務内容・行事等の精選・見直しの実行

(3) 保護者・地域との協働的な教育活動の積極的活用や充実

① 150周年の節目の意義等を共有、教育活動情報発信と家庭との連携・協働

② CS及び「二小くまっ子応援団」との地域協働による教育活動の充実

5 年度末のチェックポイント

I 教育目標の重点「よく考える子」(深い学び)の育成ができたか。

II 学習指導要領の確実な実施とカリキュラム・マネジメントの推進が図れたか。

III 組織力向上、保護者・地域との連携・協働、CS指定校運用の活性化が図れたか。